



TITLE:

會長理学博士大幸勇吉先生の喜壽  
を迎えて

AUTHOR(S):

CITATION:

會長理学博士大幸勇吉先生の喜壽を迎えて. 物理化學の進歩 1943, 17(1)

ISSUE DATE:

1943-01-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/46334>

RIGHT:



會長 大幸勇吉博士

## 會長理學博士大幸勇吉先生の喜壽を迎えて

本會會長理學博士大幸勇吉先生は昨年末喜壽を迎えられ彌々御健勝に渡らせらるゝ事會員一同の喜びは勿論我が國學界の慶賀の至である。先生は慶應二年十二月廿二日加賀の國大聖寺に誕生あらせられ、化學に就ては本會の顧問たりし故櫻井銓二先生に師事せられて明治廿五年東京帝國大學を卒業せられた。その後第五高等學校の教授を経て東京高等師範學校の教授に御就任、明治三十二年獨逸國に御留學、物理化學の創設者たるオストワルド及びネルンスト教授の許にて御研究、物理化學上不滅の業績を残して歸朝せられ明治三十五年には理學博士の學位を得られた。その後明治三十六年の秋京都帝國大學教授に御就任、爾來大正十五年停年御退職に至る迄二十有餘年間物理化學教授として本邦の物理化學の建設よりその發達に至る迄絶大なる功績を擧げられし事は周知の事である。又一方本邦化學教育界に盡されし功勞等先生が學界に残されし威大なる業績は今更こゝに述べる迄も無い。京都帝國大學御退職後も同學名譽教授として又帝國學士會會員として學界各方面に御盡瘁、今尚後進の誘掖につとめられ本會を統率せられつゝある次第である。大東亞戰爭下化學振興の最緊要なる時に當り先生の如き學界の長老を有する事は我が國の誇りであり、茲に先生の高壽萬歳を祝し巻頭に先生の近影を載せて會員にその喜びを頒かたんと思ふ。

昭和十八年一月